

2024年度 中学部入試問題について

国府台女子学院中学部

< 国 語 >

1. 2023年度の問題分析

①推薦入試

平均点は60.6点。試験内容は、例年と同様に、知識問題と短めの文章読解を含む小問集合でしたが、今回2023年度より文章読解の1000字程度という字数制限をなくしました。それに伴い、点数配分も第1回・第2回同様の小問40点、長文60点となりました。2023年度の問題は昨年に比べて基本的な問題もあったため、平均点が上がりました。到達率は55.9%。知識問題(問十一まで)に関しては、従来の問題傾向にしたがった漢字(熟語)、言葉の意味の問題で正答率が低いもの(問三「ほのめかす」を答える問題や、問四の慣用句を完成させる問題など)も多くありました。問七では、漢字とひらがなを入れて答える指示に従うことができていない解答も多く見られました。問十一の短文を作る問題は比較的よくできていましたが、助詞をきちんとした形で使えずに減点されたものや、シチュエーションがはっきりせずに不正解になったものも多くありました。長文読解問題は、透明な卵に守られた少女の心情を描いた小説の一節でした。到達率は63.7%。全体の到達度としては低くはありませんが、問6や8のように登場人物の芯の部分の心情や本文の内容理解に直接的に繋がる問題などでは苦戦した様子が見られました。また問十一のように本文の内容に即して自分の考えを説明する問題では、本質的な部分を捉えて正解できた解答は少なく、本文の表面をさらっただけの部分点のみの解答が多く、厳しい結果になっていたように感じられました。

②第1回入試

平均点は63.9点。問題の構成は例年どおりで、推薦入試と同様の小問集合を40点、長文問題(文学的文章、今回は小説)を60点として出題しました。小問集合の問題は基本的なものが多かったものの考えて解く問題も多く、到達率は50.9%でした。問八や問九に関してはその言葉自体を知らない受験者も多かったためか、正解者と不正解者の差が開く結果となりました。「なけなし」という語を用いる短文作成問題に関しても、「なけなしの」という使い方を知らない受験生が多かったようです。問三や問四は、いくつかのヒントや例を参考にしながら解き、比較的正答率の高い結果となりました。長文問題(小説)は、「人間タワー」と呼ばれる組体操の是非を問う学級会を通して、主人公が自分自身のことや家族・クラスメイトとの関係性について思いを巡らしていく物語。長文の到達率は72.6%でした。今回の入試でも、この小説の文字数が10000字を超え、集中力を切らずに最後まで読み進めることが難しかった受験生も多かったことと思いますが、主人公が受験を控えた小学校六年生で、思いを投影しやすい内容のためか、全体的に比較的高い正答率でした。ただし、正解を本文中から抜き出して答える問題では、漢字の間違いや文中からそのままの形で抜き出せない初歩的なケアレスミスが多く目立ったので、本文が長くてもそれに動じず注意深く確認することが大切でしょう。また、本文全体の内容を把握しているかを問う問十一、十二などの正答率が低かったように感じられました。文章量が多くても落ち着いて解答するには、文章量の多い教材で練習を積み、時間配分を考えて解答する習慣を身につけていくことが必要です。

③第2回入試

平均点は53.5点。問題の構成、配点は推薦・第1回と同様です。小問集合は推薦・第1回の出題形式と同じパターンのものも多く出題しました。ひねりのある問題が少なめで、言葉を知っていればできる問題が比較的多かったためか正答率の高いものもあり、到達率は59.1%でした。長文読解問題は、現代の人間関係のあり方について述べた文章。こちらも本文が10000字を超えた長文のため、時間内に問題文の内容を読み取れない受験生も多かったようです。到達率は49.8%。問三や問七は問題部分までの内容を全体的に捉えられていない受験生が多く、問十三でもⅠ・Ⅱともに正解している人は少なかったようです。第2回の長文読解問題では長文を読む力が身についている人と、全体の内容が正確に読み取れない人との差が激しい結果となりました。こちらも第1回同様、語彙力を高めながら、なるべく文章量の多いものを時間内で整理しながら読む練習が必要となります。

2 2024年度入試の傾向と対策

①全体の構成

今年度も推薦入試(40分、100点)、第1回・第2回入試(50分、100点)ともに、小問集合と長文読解問題1題という形式で出題します。推薦入試の長文読解の文字数の規定は設けませんが、第1回・第2回に比べると試験時間も40分と短いので、第1回・第2回同様のすごく長い長文が出るというわけではありません。入試の形式、内容、配点は例年どおりで変更はありません。

②小問集合について

漢字・熟語、ことわざ・慣用句、新聞等でよく用いられる語句(外来語も含めて)の意味選りなどの知識問題や、正しい言葉の使い方、文法、短文作りなど語句に関する問題が中心です。また、「ヒントに従って考える力」をみる問題や、感性・想像力をはかる問題も出題したいと考えています。近年は漢字・熟語などの「基本中の基本」をマスターしていない受験生が目立つので、難問ばかり解くのではなく、まずは漢字力(意味を含めて)を鍛えてください。

③長文問題について

全ての入試において1題だけの出題ですので、問題文自体は長めになると思います(推薦入試の場合は解答時間が少ないこともあり、平均的な分量になるかと思いますが)。文章のジャンルとしては、説明的文章(評論など)か文学的文章(小説や随筆など)かのどちらかを出題します。

長文問題は、「要するに何がどうだと言っているのか」「だれがどんなことをして、どう思っているのか」という骨格を頭の中で確認しながら読むことが大切です。大筋をきちんとつかめれば、とんでもない間違いはしません。また選択肢の問題で正答率をあげるには、解答の骨格となる内容を本文中から客観的に探し、それを別の言葉に置き換えて説明する訓練をしておくとい良いでしょう。記述問題に関しても、同様の訓練が必要になりますが、問いが求めている内容や答え方に合わせるために、その中心語句をどう変えなければならないか、あるいはそのままでもいいかなどよく考えましょう。例年、主語と述語がきちんと対応していないもの、要点は充分に捉えていても文末の答え方が不適切である記述解答を多く見かけます。問題文をよく読まず、指示した事柄に対応していないものや、「あてはまる」内容の選択肢を答えるのか、「あてはまらない」内容の選択肢を答えるのか、そのような初歩的なミスと思われる答案も多いので、十分に注意してください。

また2023年度の推薦入試で見られたように、本文の内容を元にして自分の考えを説明するような問題もあるかもしれません。常に柔軟な意識をもって物事に接していく必要があります。好奇心を持ち、語彙を豊富にして自在に思考を廻らすことができると良いですね。

なお、小問集合、長文問題とも、出題する漢字は小学校で学習するものを原則としますが、よく日常で用いられるレベルのものについては、小学校で学習していないものを出题する場合があります。また、本文中の「ふりがな」についても、ある程度の読書習慣があれば読めるような常識的なものは、小学校の学習範囲以外でもつけない場合があります。

国語力を高めるのは、やはり読書習慣です。語彙を増やすとともに、他者理解の姿勢を身につけるためにも良質な文章をたくさん読むよう心がけてください。

2023年度入試 国語 問題別 正答率

- ①…正答率80%以上
- ②…正答率80～50%
- ③…正答率50～20%
- ④…正答率20%以下
- ⑤…合否の正答率の差が大きい問題

※設問ごとの配点異なるため、平均点と正答率は異なります。

推薦入試

設問		①	②	③	④	⑤
問一	①		○			◎
	②	○				
	③		○			◎
	④			○		
	⑤			○		
問二				○		
問三				○		◎
問四					○	
問五			○			
問六		○				
問七			○			◎
問八		○				
問九				○		
問十		○				
問十一			○			
問十二	1	ア	○			
		イ	○			
		ウ			○	
		エ			○	
		オ	○			
	2	カ		○		
		②	○			
	3	④			○	
		1	○			
		2		○		
		3	○			
	4			○		
	5	A	○			
		B	○			
	6				○	
	7			○		◎
	8	a		○		
		b		○		
		c				○
		d		○		
	9	○				
	10		○			
	11				○	

総合	61.4%
----	-------

第1回入試

設問		①	②	③	④	⑤
1	問一	①			○	
		②			○	◎
		③			○	
		④				○
		⑤		○		
	問二	○				
	問三		○			
	問四	○				
	問五			○		
	問六	○				
	問七			○		
2	問一	問八			○	
		問九			○	
		問十		○		◎
		問十一			○	
		問十二				
		問十三				
	問二	a	○			
		b		○		◎
		c		○		◎
		d	○			
		e	○			
		f	○			
	問三		○			◎
	問四	A	○			
		B	○			
		C	○			
		D	○			
	問五	○				
	問六	○				
	問七		○			
	問八	○				
	問九			○		
	問十	○				
	問十一			○		
	問十二			○		
	問十三		○			

大問別	1	49.2%
	2	74.9%
総合		64.2%

第2回入試

設問		①	②	③	④	⑤
1	問一	①		○		
		②		○		◎
		③		○		◎
		④	○			
		⑤			○	
	問二		○			
	問三			○		
	問四		○			
	問五	○				
	問六			○		◎
	問七			○		
2	問一	問八		○		
		問九	○			
		問十			○	◎
		問十一			○	
	問二	a		○		
		b	○			
		c			○	
		d			○	
	問三			○		
	問四		○			
	問五			○		
	問六		○			
	問七		○			
	問八			○		
	問九		○			
	問十			○		
	問十一			○		◎
	問十二			○		
	問十三	I	○			
		II			○	

大問別	1	59.1%
	2	49.6%
総合		54.0%

< 算 数 >

1. 2023年度の問題分析

①推薦入試

出題内容は大問5題の構成で、整数・小数・分数の四則混合計算問題、短い文章形式の計算穴埋め問題、解法の経過を考えさせる問題、図形を利用した計算問題、グラフから数値を読み取る問題に分かれています。最初の四則混合計算問題は正答率が他の問題よりも高く、ほとんどの受験生が得点しています。それ以降の問題では、特殊算を出題していますので、代表的な問題を繰り返し解き、理解度を高めておく必要があります。

平均点は52.4点。第1問の四則混合計算問題の正答率は合格者が85%と大変よくできていました。第2問の特殊算を使った一行問題は、(5)(6)の正答率が低くなりました。(5)は倍数の特徴を理解しつつそれぞれのカードの数をしばりこむ作業が多少難しかったかと思います。(6)は仕事算でしたが、A、B それぞれの動きを理解し、仕事量を考えていかなければならない問題でした。第3問(2)の記述問題は、合格者と不合格者の差が大きくなりました。基本的な通過算の問題なのですが、普段から記述の練習をしておかないと答えは出せても説明できないという部分で差が出てしまったかと思います。第4問の図形の問題は、(2)、(3)の正答率が低くなりました。図形の性質を使い、工夫して求めることで簡単に求めることができたのですが、気付かなかった受験生も多かったようです。第5問のグラフ問題は、合格者と不合格者の正答率の差が非常に大きくなりました。特に不合格の受験生は、(1)で間違えてしまうことにより、それ以降の問題が不成立になってしまったようです。

②第1回入試

出題形式は推薦入試とほぼ同じです。

平均点は56.5点。第1問の四則混合計算問題はとても高い正答率でした。第2問の特殊算を使った一行問題については(1)～(3)は基本的な特殊算の問題を出題しましたが、(1)(3)は合格者と不合格者での正答率の差が大きくなりました。(4)の問題は、状況を把握し、規則性を考える問題でした。第2問の他の問題と違い、特殊算を使うものではなかったもので、取り組みづらかったかもしれません。第3問の経過を見る問題については、良く出来ていたかと思います。第4問では、正答率が全体的に良くありませんでした。図形に苦手意識がある受験生が多いように感じました。(2)は、四角形の内角の和が 360° であることから角度のわからない2つの扇形の中心角の大きさがわかります。また(3)は、回転してできる立体が2つの円錐台の組み合わせであることに気づき、円錐同士が接着している面の半径を求めることができるかがポイントとなりました。第5問のグラフの問題は、(1)は全体的に良くできており、(2)は合格者と不合格者の正答率の差が大きくなりました。(2)は、グラフ全体を見て、状況を把握することができたかで差が出たかと思います。(3)(4)は、正答率が低くなりました。状況を把握しづらいことと時間が足りなくなってしまうことが原因だかと思います。

③第2回入試

出題形式は推薦入試とほぼ同じです。

第2回入試は平均点が44.0点。全体的に、合格者と不合格者の差が大きくなりました。特に、第3問(2)の記述問題は、合格者が80%以上の正答率だったのに対し、不合格者は白紙も目立ちました。また、第4問(1)(3)においても差が出ました。図形の問題は、少し工夫すると簡単に解ける問題もあります。特に(3)は、図形をうまく組み合わせることにより、円すいと円柱の体積の和で求めることに気づくと求めやすかったかと思います。第5問のグラフの問題においても、(1)で正答できずに(3)(4)が答えられなかった人が多く見られました。

2. 2024年度入試の傾向と対策

2024年度入試については、昨年度と大きな変更はありません。出題については、すべての試験において同じ形式で行います。最初に四則混合計算を数問出題し、次に文章形式の計算穴埋め問題を出題します。解法の経過を見る問題については、2問用意し、1問は穴埋め問題、1問は計算過程を書かせる記述問題とします。図形、グラフといった問題も例年通り出題する予定です。対策としては、第一に基本的な計算力をつけることです。四則混合計算は確実に得点できるようにしてください。また、中学受験に必要な様々な特殊算について理解を深めてください。最初の計算と、特殊算の一行問題、途中経過を見る問題で、テスト全体の約60%を占めます。経過、図形、グラフなどの応用問題も大切ですが、それ以上に基礎的な部分に目を向けてほしいと思います。また、問題をきちんと読み、立式できるように練習しましょう。解法の経過を書く問題は、どのように考え、答えを導き出したのかを確認するためのものなので、考えを省略することなく、丁寧に書くことを意識すれば、正解にたどり着きます。図形問題については、円周率 3.14 などの小数を用いた計算で受験生間に差がつく傾向があります。グラフ問題については、分かったところから数値を書き入れるようにし、場合によっては自分で理解しやすくするために、与えられたグラフ以外に他の図などを描いたりすると良いでしょう。

2023年度入試 算数 問題別 正答率

- ①…正答率80%以上
 ②…正答率80～50%
 ③…正答率50～20%
 ④…正答率20%以下
 ⑤…合否の正答率の差が大きい問題

※設問ごとの配点異なるため、平均点と正答率は異なります。

推薦入試

設問		①	②	③	④	⑤
1	1	○				
	2	○				
	3		○			
2	1	○				
	2	○				
	3		○			◎
	4	○				
	5				○	
	6				○	
3	1	ア	○			
		イ	○			
		ウ		○		
		エ	○			
		オ		○		◎
	2		○			◎
4	1		○			
	2				○	
	3				○	
5	1			○		◎
	2		○			◎
	3				○	
	4				○	

第1回入試

設問		①	②	③	④	⑤
1	1	○				
	2		○			
	3		○			
2	1		○			
	2	○				
	3		○			◎
	4				○	
	5			○		◎
	6			○		
3	1	ア	○			
		イ	○			
		ウ	○			
		エ		○		
		オ		○		
	2	○				
4	1			○		◎
	2			○		◎
	3				○	
5	1	○				
	2		○			◎
	3			○		
	4				○	

第2回入試

設問		①	②	③	④	⑤
1	1		○			
	2	○				
	3		○			
2	1	○				
	2		○			
	3			○		◎
	4				○	
	5				○	
	6				○	
3	1	ア	○			
		イ	○			
		ウ		○		◎
		エ			○	
		オ			○	
	2		○			◎
4	1			○		◎
	2			○		
	3			○		
5	1			○		◎
	2		○			
	3				○	
	4				○	

大問別	1	75.6%
	2	56.2%
	3	76.7%
	4	28.5%
	5	31.2%
総合		56.1%

大問別	1	82.5%
	2	47.5%
	3	78.6%
	4	29.9%
	5	44.7%
総合		57.9%

大問別	1	75.4%
	2	35.0%
	3	54.3%
	4	35.4%
	5	30.0%
総合		44.9%

< 社 会 >

1. 2023年度の問題分析

①推薦入試

社会と理科合わせて50分、配点は各50点満点です。各問のテーマは直前の説明会で伝えました。

【地理】米作りをきっかけにして地理的な問題を出題しました。

【歴史】沖縄返還50年に関連した、様々な問題を出題しました。

【公民】7月に行われた参議院議員選挙に関連して、政治・経済などの問題を出題しました。総じて、正確に語句を書けるかどうかで、大きく差がついています。また、単純に語句を答えるにしても、間違えている人は問題文をよく読んで何を答えればよいのかを判断する力が低いようです。

②第1回入試

第1回・第2回入試ともに、30分間で配点は60点満点です。

【地理】日本の領土・領域や地形、気候風土など地理的な問題を出題しました。

【歴史】日中国交正常化50年に関連して、政治・外交のさまざまな問題を出題でした。また、記述の問題もありました。

【公民】国葬儀をきっかけにして、政治・経済・外交などについての問題を出題しました。

③第2回入試

第2回入試は、テーマを事前に公開しません。

【地理】本学院中学2年生が研修旅行で名古屋・伊勢志摩方面に出かけた際の様々な問題を出しました。

【歴史】古代から現代にかけて、日本の外交に関する様々な問題を出題しました。

【公民】「コロナ禍」における日本政府の対応について、法律や政策など様々な問題を出題しました。

2. 2024年度入試の傾向と対策

推薦入試、第1回・第2回のいずれの入試も「地理」「歴史」「公民」の3つの分野から出題します。推薦入試は地理・歴史合わせて35点前後、公民は15点前後の予定です。第1回・第2回入試は地理・歴史がそれぞれで20～25点、公民は15点前後の予定です。大問と出題分野はおおよそ対応しますが、あえて分野横断的な事項を問うこともあります。このような出題は、積極的に行っていきたいと思います。また、分野を問わず、時事問題的要素を含む出題も行います。

推薦入試に関しては、理科と合わせて50分という短い試験時間になっていますので、時間配分に気をつけてください。

難易度については、第1回・第2回に比べて、推薦入試は基礎的な問題を多く出題します。また、いずれの入試でも簡単に説明してもらう論述問題を出題することがあります。問いに対する答えを的確に文章で表現できるように練習しておいてください。

なお、地名・人名・事件名などの用語を答える場合は、必ず漢字で解答してください。誤字は言うまでもなく、ひらがなも原則として得点にはなりません。そのため普段からきちんと漢字で書く習慣を身につけてください。

例年、ただ知識を問う問題や、説明会で解説したテーマそのままの問題については正答率が高く、ここは合格のためには落とせない部分となります。また、どの入試でも時事問題に関する出題の正答率が高く、よくチェックしていることがうかがえました。差がつくのは、時代や出来事についての理解を問う問題(さらにそれを説明する記述問題)、表・グラフ・資料を読み解く問題、問題文をよく読み「何を聞かれているのか」把握する問題、時代の並び替え問題、歴史分野での日本の国際関係に関わる問題、そして漢字の正確さです。こういった問題をどれだけ解くことができるかが、合否を分けます。特に、漢字をきちんと書ける人とそうでない人がはっきりと分かれるようになってきました。漢字を正確に書く人は、その他の問題の正答率も高く、漢字が不正確な人は、その他の問題も解けていません。丁寧に学習する姿勢が、それだけ重要だということです。

2023年度入試 社会 問題別 正答率

- ①…正答率80%以上
- ②…正答率80～50%
- ③…正答率50～20%
- ④…正答率20%以下
- ⑤…合否の正答率の差が大きい問題

※設問ごとの配点が異なるため、平均点と正答率は異なります。

推薦入試

設問		①	②	③	④	⑤
1	1	①	○			
		②			○	
		③	○			
	2			○		
	3	①	○			
		②	○			
	4		○			◎
	5		○			
	6	①	○			
		②	○			
2	1		○			
	2				○	
	3			○		◎
	4	①	○			◎
		②	○			◎
		③	○			
	5		○			
	6		○			
	7			○		
	8		○			
3	1	あ		○		
		い	○			
		う	○			◎
	2			○		
	3		○			
	4		○			
	5			○		
	6			○		
	7		○			
	8			○		

大問別	1	54.8%
	2	53.9%
	3	49.8%
総合		53.0%

第1回入試

設問		①	②	③	④	⑤
1	1	○				
	2	①	○			
		②	○			
	3		○			
	4	○				
	5		○			◎
	6	あ		○		
		い	○			
		う		○		◎
	7		○			
	8			○		
2	9	○				
	10	○				
	11	①	○			
		②		○		
	1	あ		○		
		い		○		
		う		○		
		え		○		
		お		○		
	2	I	○			
3		II		○		
		III		○		
	3	①		○		
		②	○			
	4		○			
	5				○	
	6		○			
	7		○			
	8			○		
	9		○			◎
	10	○				
	11			○		
	12			○		
3	13		○			
	1	○				
	2				○	
	3		○			
	4				○	
	5				○	
	6	①		○		◎
		②		○		
	7	①		○		◎
		②		○		
	8			○		
	9			○		
	10				○	

大問別	1	68.0%
	2	60.3%
	3	38.7%
総合		57.3%

第2回入試

設問		①	②	③	④	⑤
1	1	あ	○			
		い	○			
		う	○			◎
	2			○		
	3		○			
	4	①	○			
		②		○		
	5		○			
	6		○			◎
	7	○				
2	8	○				
	9		○			
	10			○		
	1	あ		○		
		い			○	
		う		○		◎
	2			○		
	3			○		◎
	4		○			
	5		○			
	6	○				
	7			○		
3	8	①			○	
		②		○		
	9		○			
	10			○		
	11			○		
	12				○	
	1		○			
	2		○			
	3	①	○			
		②	○			
	4	①		○		
		②		○		◎
3	5		○			
	6			○		
	7	①	○			
		②	○			
	8			○		
	9	①		○		
		②		○		
				○		
				○		

大問別	1	65.9%
	2	40.8%
	3	52.0%
総合		52.3%

< 理 科 >

1. 2023年度の問題分析

①推薦入試

問題数は大問4問です(50点満点、総問題数は24問)。大問1は小問集合で、生物・化学・地学・物理の順に各2問ずつ全8問を出題しました。基本的な知識を答える問題が多い中で、正答率は、化学分野の「木のむし焼き」に関する記述問題でやや低く、物理分野の「物体の動きによる水面の状態」を描く問題はかなり低くなり、受験生にはイメージしにくかったと思われます。大問2は生物分野で、「人体の腕の仕組み」に関する内容、大問3は地学分野で、「火山」に関する内容、大問4は物理分野で、「音」に関する内容でした。大問2～4は、全体的に正答率は高めであり、受験生には取り組みやすい問題となっていたようです。

合否の正答率の差が大きくなった5題は、小問集合の「心臓のつくり」を選ぶ問題、「木のむし焼き」に関する記述問題、「示相化石」を選ぶ問題、大問2の「腱」を記述させる問題、大問3の「火山岩」を選ぶ問題となりました。

②第1回入試

問題数は大問5問です(60点満点、総問題数は29問)。大問1は推薦入試と同様に小問集合で、生物・化学・地学・物理分野から出題しました。正答率は、生物分野の「腎臓のはたらき」を選ぶ問題と物理分野の2問についてやや低くなりました。大問2は生物分野で、「環境問題」に関する内容でした。日常生活と関連する問題も多く、全体的に正答率は高めとなりました。大問3は化学分野で、「水溶液」に関する内容でした。知識問題、計算問題ともに正答率は高めでした。最後の設問は「再結晶(法)」を答える問題でしたが、この問題が全体を通して最も正答率が低くなりました。大問4は地学分野で、「天体」に関する内容でした。化学分野と同様に、典型的な問題となっていたこともあり、大問の中で最も正答率が高くなりました。大問5は物理分野で、「てこ」に関する内容でした。どの問題についても正答率が50%に届かず、受験生には難しい問題となったようです。

合否の正答率の差が大きくなった5題は、大問3の「濃度計算」に関する問題、大問4の「カシオペア座の位置」を選ぶ問題、大問5のはじめの3題となりました。特に大問5については、前問の結果を使って解く問題となっていたため、合否に大きな影響があったと思われます。

③第2回入試

出題形式は第1回と同様で(大問5問、60点満点)、総問題数30問でした。大問1は他の試験と同様に小問集合を出題しました。正答率は、地学分野の「星」に関する問題が特に低く、物理分野の「てこ」の問題はやや低めとなりました。大問2は生物分野で、「開花条件」に関する内容でした。問題文で与えられた条件から考察する問題ではありましたが、正答率は高くなりました。大問3は化学分野で、「金属の性質」に関する内容でした。すべてが知識問題で、該当するものすべてを答える問題が多かったこともあり、低めの正答率となりました。大問4は地学分野で、「川の流れと地形」に関する内容でした。主に基本的な知識問題であり、大問の中で最も正答率が高くなりました。大問5は物理分野で、「相対速度」に関する内容でした。大問2の生物分野と同様に、問題文で与えられた条件から考察する問題となっており、はじめの2問以外は、正答率が低くなりました。

合否の正答率の差が大きくなった5題は、小問集合の化学分野の2題、大問2の「虫媒花」を選ぶ問題、大問3の「水銀」を選ぶ問題と「水素の性質」を選ぶ問題となりました。

2. 2024年度入試の傾向と対策

3回の試験ともに、例年通りの傾向で作成予定です。推薦入試は大問が4問で、小問集合と生物・地学・物理となります。総問題数は25問前後で、易しいものからやや難しいものまで出題する予定です。

第1回・第2回は大問が5問で、小問集合と生物・化学・地学・物理となります。総問題数は30問前後で、各回とも基礎的な知識を問う問題、計算問題、グラフや図から規則性を読み取る問題を出題する予定です。

対策としては、理科全般にわたる基礎的な知識問題を必ず出題しますので、基礎学力をしっかりと身につけて下さい。また、問題文で与えられた条件から考察する問題、簡単に説明する問題など、知識を活用しながら答えを導く問題も出題する予定です。身につけた基礎学力の活用の仕方を考えながら問題を解くことを大切にして取り組みましょう。

2023年度入試 理科 問題別 正答率

- ①…正答率80%以上
 ②…正答率80～50%
 ③…正答率50～20%
 ④…正答率20%以下
 ⑤…合否の正答率の差が大きい問題

※設問ごとの配点が異なるため、平均点と正答率は異なります。

推薦入試

設問		①	②	③	④	⑤
1	1		○			
	2			○		◎
	3		○			
	4			○		◎
	5		○			◎
	6		○			
	7		○			
	8				○	
2	1		○			
	2		○			◎
	3		○			
	4		○			
	5		○			
3	1		○			
	2		○			
	3		○			
	4	○				
	5	①	○			◎
		②	○			
4	1	○				
	2		○			
	3	○				
	4			○		
	5			○		

大問別	1	49.5%
	2	65.7%
	3	66.1%
	4	58.3%
総合		58.9%

第1回入試

設問		①	②	③	④	⑤
1	1		○			
	2			○		
	3	○				
	4		○			
	5		○			
	6		○			
	7			○		
	8			○		
2	1		○			
	2		○			
	3		○			
	4		○			
	5		○			
3	1		○			◎
	2	○				
	3	○				
	4	○				
	5				○	
4	1	○				
	2		○			◎
	3	○				
	4	○				
	5		○			
	6		○			
5	1			○		◎
	2	①		○		◎
		②		○		◎
	3			○		
	4			○		
				○		

大問別	1	56.4%
	2	69.5%
	3	69.8%
	4	75.8%
	5	40.4%
総合		62.2%

第2回入試

設問		①	②	③	④	⑤
1	1	○				
	2	○				
	3		○			◎
	4	○				◎
	5		○			
	6				○	
	7		○			
	8			○		
2	1		○			
	2		○			◎
	3		○			
	4		○			
	5		○			
3	1	○				◎
	2	○				
	3			○		
	4				○	
	5			○		
	6			○		◎
4	1			○		
	2	○				
	3		○			
	4	①	○			
		②		○		
5	1	○				
	2	○				
	3			○		
	4			○		
	5			○		
	6				○	

大問別	1	58.8%
	2	64.5%
	3	48.8%
	4	70.5%
	5	47.9%
総合		57.5%

Memo

Memo

